

総合教育会議（第2回）会議録

| | |
|--|---|
| 1 開会年月日 | 平成28年8月22日（月） 午後4時 |
| 2 場所 | 笠岡市役所 市長室 |
| 3 出席委員等の氏名 | 笠岡市：小林嘉文市長 教育委員会：浅野文生教育長，廣井滋季委員，谷喜一朗委員，三谷信恵委員，石井啓弐委員 |
| 4 欠席委員等の氏名 | なし |
| 5 会議に出席した者の職・氏名 | 福尾教育部長，前川 |
| 6 議事案件及び会議の概要 | |
| <p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p style="padding-left: 20px;">小林市長</p> <p style="padding-left: 20px;">浅野教育長</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 小・中一貫教育について</p> <p>時間軸の問題はあるが，市長と教育長で小・中一貫校の方向性については一致していることを確認。その後，前回の協議を踏まえて教育長が教育委員会としての小・中一貫教育に対する意見を述べ，市長がそれに回答。その後，意見交換を行った。</p> | |
| <p>教育長：学力に特化した小・中一貫は賛成できない。</p> <p>市長：学力には特化しない。</p> | |
| <p>教育長：連携教育の推進や強化をやっていただきたい。</p> <p>市長：連携教育の推進も当然行う。連携教育に関しては，外浦のように小・中が隣接する形でやっても良いし，「敬業館」のように同じ学校内でやっても良い。</p> | |
| <p>教育長：人を呼び込むために教育を売りにするよりも，もっと子どもたちのことを第一に考えていただきたい。</p> <p>市長：人を呼び込むということは，商売のように人を呼び込むことではない。ここの学校に子どもを学ばせたいということをして市外から増やすという意味で，自然に人が集まるということ。そういう学校のコンセプトに賛同する保護者が自分の子どもを通わせたいと思って「敬業館」に通わせる。</p> | |
| <p>教育長：笠岡市全体の教育のレベルアップをお願いしたい。一貫校だけ特化してそれを上げたら全体が上がるという部分は理解できない。</p> <p>市長：これは方法論。満遍なく平等に一つ一つ底上げする方法もあるし，一箇所上げることによって他も引っ張り上げるという方法もある。どっちが良いとか悪いとかという問題ではない。</p> | |
| <p>教育長：義務教育学校は小・中学校両方の教員免許が必要ははずである。</p> <p>市長：当然の話。岡山県の教育委員会とも県知事ともそういう話をして，そういう先生を派遣してもらおう事になる。</p> | |
| <p>教育長：笠岡西中学校が1クラスになると子どもの関係が固定化する。統廃合を考えた時も，もっと流動性がある中で社会性を身に付けてもらいたいという思いだった。</p> <p>市長：大井小学校と今井小学校を一緒にして西中に小・中一貫校を造るというように，中学校区で考えることも1つの考え方。そうすることで，これからまた生徒が集まってくる可能性もある。小・中一貫校にしてしっかりと郷土愛を育みますという説明で統廃合の話をするれば賛成する保護者の方も増えてくる。</p> | |

教育長：どうして小・中一貫にすると笠岡市に愛着を持ってもらえるようになるのか分かりにくい。
市長：9年間同じ先生と仲間と学ぶ中で、じっくりと物の見方・考え方が育まれる。また、カリキュラムの組み方も工夫できる。優秀な子どもたちを笠岡に止めるという意味でも小・中一貫校、或いは中・高一貫校でも良いと思うが、そういったことが子どもたちを引き止める1つの模索になればという思いでいる。

教育長：メリットやワクワク感が全く感じられない。今の学校でも十分郷土愛を教えている。
市長：ワクワク感を作り出すのは我々。我々が教育委員会と一緒に頑張ってワクワクしなければいけない。どんな器を作っても、ワクワクになるかどうかは自分たちの問題。

教育長：副担任を付けていただけるなら、このままで副担任を付けてもらって、本採用の先生をもっと引っ張って来てもらった方が良い。何億もお金を掛けて建物を造ってするほどのことでもない。

市長：副担任を全部付けると笠岡市が負担しなければいけないコストも増える。できるだけ集約して副担任を付けていくようにしたら良い。統廃合して空いている土地ができれば、それを住宅地として売却できるので、全てお金が掛かるということでもない。

教育長：市役所跡地のマンションに誰が入って来るか分からない。「敬業館」という言葉もあまり認知されていない。そして、子どもは仕事も含め、将来に夢を持って勉強している。

市長：誇りを取り戻すという意味で「敬業館」という名称を考えた。200年前に使っていた言葉を復活させて笠岡に対する愛着とかアイデンティティと呼び覚ましたいという思い。笠岡小学校には「敬業館」の額が掛かっているの笠岡小学校を卒業された方なら御存知。

(意見交換)

意見交換の主なものは次のとおり。

委員：「敬業館」が駅に近いということで市外から来ると言われるが、「敬業館」に入る間口を広げるといふことか。

市長：笠岡市民に限る。倉敷からでも福山からでも笠岡市民になってくれれば入れる。

委員：小・中一貫校は、教育に特色を持たせることで笠岡の教育のイメージが良くなるという一面はあると思うが、教育で考えたときに最終的にはどこの大学に行くかということだと思ふ。そう考えた場合には、小・中一貫校よりは中・高一貫校を笠岡に造って進学率の良い学校が笠岡にあるという方が、もっと笠岡の教育のイメージが良くなると思ふ。

市長：良い大学に行くという点では、私も中・高一貫校が良いと思ふ。ただ、私が言っているのは笠岡工業高校や笠岡商業高校に進学して地元で就職する人間を沢山作りたいということ。私の政策をこのままやり続けるとどうなるかと言うと、笠岡に企業を沢山誘致しても地元で就職してくれない現象が生まれる。笠岡工業高校には160名の生徒さんがいるが、20名程度が専門学校や大学に進学して140名程度が就職している。そのうち笠岡に就職している人は、今年の3月で6名。そして、70名程度が福山や倉敷などの通勤圏内に就職している。残りが東京、大阪、その他の所に行ってしまう。しかし、地元に残ったこの70名も結婚したり家を建てたりする時にほとんど笠岡を出る。笠岡は農業振興法などがあって家が建てにくいので里庄に出て家を建てて倉敷に通勤するなどしている。これは大きな問題。笠岡工業高校を出て笠岡の企業に就職し、両親と一緒に暮らして両親の面倒を見る。そうすれば色々な問題が解決する。そういう循環を作りたい。

委員：小・中一貫校と同じような成果は、笠岡市が現在取り組んでいる連携教育をさらに進めていけば出ると思ふ。

市長：小学校に進級する6歳の学力の差と小学校から中学校に進級する時の学力の差は幅が違うと思ふ。この6歳の時の学力の差が小さい時に、その差を縮めるというのが私の考え。そのために副担任を付ける。これを9年間やるので必ずレベルアップする。

委員：「敬業館」という小・中一貫校だけに副担任を付けると、他の学校の子どもたちはどうなりますか。教育格差が生まれるのではないかと。

市長：格差が生まれるならば徐々に増やしていく。住民や保護者の方々から要望があれば、どういう計画で増やしていくか相談しながらやっていく。

委員：お金がないのに、何故、新しく学校を建てるのか。

市長：人を増やすための将来への投資。皆さんに豊かな生活を味わってもらうために税収を増やしたい。「敬業館」をやったら人が増えるのかというと、それは100パーセントの保証はできない。ただ、現状維持よりは可能性があるから、そちらに投資してみませんかと教育委員会に提案している。

この他、意見交換の中では、中・高一貫校の検討について意見が出た。これについては、笠岡高校の鳥越校長の話を用いて、市長が笠岡高校の現状と中・高一貫校のメリット・デメリットを説明した。

(2) その他

以下のア～エについては、教育委員に対して現在の状況を報告。

ア 幼・保一体化について

イ 市営プールについて

ウ 市立図書館について

エ 笠岡信用組合の奨学金制度に関して

4 会議総括

小・中一貫教育については、第三者組織を作るなどの方法も含めて継続して協議を行うことを確認。

| | |
|---------|-----------------------|
| 7 会議の詳細 | 別紙議事録のとおり |
| 8 閉会年月日 | 平成28年8月22日(月) 午後5時30分 |

上記会議のてんまつを記録し、関係図書を添付して、その相違のないことを証するため、署名押印します。

平成28年9月 9日

笠岡市長 小林 嘉文

教育長 浅野 文生

教育委員 廣井 茲季

教育委員 谷 喜一朗

教育委員 三谷 信恵

教育委員 石井 啓也